

Good Job!! Nagasaki

グッジョブ!!
長崎県



今日のグッジョブ
[こども医療福祉センター]
子ども医療の拠点施設



医師や看護師のほか、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など17職種約120名(非常勤含む)が勤務。前列右から3番目が二宮所長



医療局 原田洋平さん(作業療法士)
主に脳性麻痺などで体に不自由がある方や発達障害の方の機能訓練に携わっています。将来の社会参加につながるよう訓練を行う中で、できなかった動作ができるようになると、子どもの表情がいきいきしてくるのがわかり、やりがいを感じます



地域連携室 野原愛衣さん(保育士)
地域の幼稚園や保育所、学校、障害児通所支援事業所との連携の窓口となり、センターの集団療育で培ったノウハウを生かして、地域でもより良い支援ができるよう頑張っています



指先の機能訓練用に、手作りのおもちゃを自ら開発することもあります

子どもたちの
明るい未来に向かって
頑張る姿にGood Job!!



リハビリテーション室にはさまざまな運動器具や道具があり、毎日たくさん子どもたちが職員の指導により機能向上に努めています

本県の未来を担う子どもたちには、障害があってもいきいきと生活できるように、心とからだの発達の支援や治療が必要です。

保健・医療・福祉・教育などの関係機関が連携し、子どもたちが住み慣れた地域で安心・安全な生活ができるよう、全力で取り組んでいきます。

長崎県知事 中村法道



て、専門医の少ない離島や県北地域への巡回療育相談などの地域療育にも力を入れています。
「センターも地域の一部として県民の皆さんにより親しまれる存在となり、全ての子どもたちが地域で明るく生活できる手助けをしていきたいと思っています」と二宮義和所長。今日もセンターでは子どもたちの未来を支える職員が子どもたちに寄り添いながら、業務に取り組んでいます。

「諫早市中心部にある「こども医療福祉センター」は、障害児入所施設と病院としての機能(診察は全て予約制)を合わせ持つ施設です。その業務内容は幅広く、先天性の整形外科疾患や脳性麻痺などにより移動や手の運動が困難な子どもたちの機能回復のための手術やリハビリをはじめ、自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症などの発達障害の診療や療育、小児難治性てんかん、小児神経疾患、心身症、不登校児などの外来診療・入院治療を行っています。(治療・療育の時は、ご家族と話をしながら進めています)
特に近年相談が増えている発達障害については、症状や個々のライフステージに合わせて支援しています。また、療育中の子どもを通う園や学校を訪問して連携や助言を行うほか、センターの小児心療科に入院している子どもたちを対象としたグループ活動やデイキャンプ等を行うなど社会性を養う活動にも取り組んでいます。
さらに、子ども医療の支援拠点として

子どもの心とからだの
発達支援・治療を行う